

<p><b>1. 日本の学術の展望</b></p>
<p><b>2. 人生のあり方、社会のあり方</b>                  ・幸福な未来への道筋（遠藤委員）                  ・多様性・共生・複線型の人生：柔軟な社会、柔軟な個人へ（宮崎委員）                  ・多様な人生後半の生物学的基盤（石川委員）</p>
<p><b>3. 少子高齢化の克服と持続発展的な社会</b>                  ・「多様な生き方」と「人口縮小」のパラドックスを解消する施策を（遠藤委員）                  ・野生動物等自然との付き合い方</p>
<p><b>4. 平和、格差、社会を見つめなおすプロセス</b>                  ・男女共同参画（ジェンダー平等（LGBT含む））の推進（三成幹事）                  ・初等中等教育における、ジェンダー公平、具体的にはステレオタイプ脅威、女性がリーダーシップ体験をすることの重要性、女子の少ない分野（STEMなど）を自身に関係するものとして捉えさせることの重要性（野尻委員）                  ・未来を作っていく決め方、仕組み等社会を見つめなおすプロセス（町村委員）</p>
<p><b>5. 医療の未来社会</b>                  ・高齢者の内的意識（石川委員、平井委員、武田委員、佐治委員）                  ・医療・過程・社会からの外的介入（石川委員、平井委員、武田委員、佐治委員）                  ・人生後半生をどのように理解するか（石川委員、平井委員、武田委員、佐治委員）                  ・認知症、医療経済、AI診断、ゲノム医療 等（6月展望委員会予定）（石川委員が依頼した執筆者）                  ・看護学分会における議論（6月展望委員会以降予定）（西村ユミ連携会員）</p>
<p><b>6. 知識集約社会と情報</b>                  ・国民ひとりひとりの活力を向上し、若者のあらゆる興味に応じて、学術界や産業界においても新しい胎動に結び付けたりできる様々なデータと情報を自由に、柔軟に活用できるシステムの構築（高橋委員）                  ・大学のあり方、リカレント教育、学術会議の発信（野尻委員）                  ・サイバーセキュリティと安全保障（徳田委員）</p>
<p><b>7. 国土のすがた</b>                  ・防災減災（米田委員）                  ・農林業における国土利用の変遷と生活環境保全（丹下委員）                  ・国土の管理と農業（澁澤委員）                  ・2030年の農業・農村・農産物流通の見通し（澁澤委員）                  ・2050年の農業・農村・農産物流通の見通し（澁澤委員）                  ・スマート農業の展望と課題（澁澤委員）                  ・食糧生産と環境保全の両立：地球環境の持続可能性への日本の貢献（丹下委員）                  ・食料・生物資源生産と温暖化防止、土地利用、森林吸収源の強化（丹下委員）                  ・海洋環境、水産資源管理（古谷研会員、和田時夫連携会員）</p>
<p><b>8. 海外からの人材流入と民族・文化・価値観等の多様性に関わった社会</b>                  ・労働力不足を補う外国人を受け入れるだけでなく、むしろ、グローバル化を牽引する人材の育成の観点から、特に留学生を中心として指導的地位になり得る若者を中心に人材育成の推進（渡辺副委員長）                  ・外部からやって来る人々との幸福な共生社会の創造（遠藤委員）                  ・多文化共生と包摂社会（宮崎委員）                  ・アジア等の優秀な研究者の受け入れによる産業の活性化と学術研究のさらなる発展とそのため魅力ある環境（野尻委員）</p>
<p><b>9. エネルギー（6月展望委員会予定）</b>                  (2)コンテンツ:</p>
<p><b>10. 日本学術会議の世界の学術界における役割</b>                  ・我が国の「すべての人のための教育」「複雑な産業を支える科学技術」を強みとした、日本学術会議の世界の学術界における役割（渡辺副委員長）                  ・孤立した学術から連携する学術へ、SDGsを通じた学術と社会の連携、世界における日本の学術のあり方、国際社会におけるユニティとダイバーシティ（武内幹事）                  ・環境問題という共通する問題を抱える東アジア全体での協調、国際ネットワークへの参加による地球規模の研究協力体制（野尻委員）                  ・ビックサイエンスとPlanetary boundary（渡辺副委員長、米田委員、野尻委員）</p>

第2章「21世紀の世界において学術研究が立ち向かう課題」

<p>・ <b>第1の課題:「人類の生存基盤の再構築」</b>                  ① 持続可能な世界とは何か                  ② 持続可能な世界と「人間の安全保障」                  ③ 持続可能な世界と地球環境問題                  ④ 地球環境問題の発生                  ⑤ 深刻な地球環境の危機                  ⑥ 地球環境問題の克服を目指して</p>
--

<p>・ <b>第2の課題:「人間と人間の関係の再構築」</b>                  ① 世界とアジアの中の日本                  ② 個人と国家、私と公の関係の再構築                  ③ 誰もが参加する持続可能な社会の構築</p>
--

<p>・ <b>第3の課題:「人間と科学技術の関係の再構築」</b>                  ① リスクに対応できる社会を目指して                  ② 個人・社会と情報技術のあり方</p>
--

<p>・ <b>第4の課題:「知の再構築」</b>                  ① 現代市民にとっての教養と教養教育の課題                  ② 知の再構築と大学における人材育成の課題</p>
---

<p><b>①あらゆる人々の活躍の推進 (SDGs 1,4,5,8,10,12)</b>                  ・働き方改革の着実な実施                  ・女性の活躍推進                  ・ダイバーシティ・バリアフリーの推進                  ・子供の貧困対策                  ・次世代の教育振興                  ・次世代のSDGs推進プラットフォーム                  ・ゼジネスと人権に関する国別行動計画                  ・消費者等に関する 対応                  ・若者・子供、女性 に対する国際協力                  ・人道支援の推進</p>
<p><b>②健康・長寿の達成 (SDGs 2,3)</b>                  ・データヘルス改革の推進                  ・国内の健康経営の推進                  ・医療拠点の輸出                  ・感染症対策等 保健医療の研究開発                  ・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 推進のための 国際協力                  ・アジア・アフリカ における取組</p>
<p><b>③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション (SDGs 2, 8,9,11)</b>                  ・基盤となる技術・データ、人材育成                  ・未来志向の社会づくり(「Connected Industries」・「i-Construction」推進等)                  ・STI for SDGsや、途上国のSTI・産業化に関する国際協力                  ・地方創生や未来志向の社会づくりを支える 基盤・技術・制度等                  ・地方におけるSDGsの推進                  ・農山漁村の活性化、地方等の人材育成                  ・農林水産業・食品産業のイノベーションやスマート農林水産業の推進、成長産業化</p>
<p><b>④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備 (SDGs 2,6,9,11)</b>                  ・持続可能で強靱なまちづくり(「コンパクト+ ネットワーク」推進)                  ・戦略的な社会資本の整備                  ・文化資源の保護・活用と国際協力                  ・防災(「レジリエント防災・減災」の構築や、災害リスクガバナンスの強化、エネルギー・インフラの強靱化、食料供給の安定化等)                  ・質の高いインフラの推進                  ・環境インフラの国際展開</p>
<p><b>⑤省エネ・再エネ、気候変動対策、循環型社会 (SDGs 7, 12, 13)</b>                  ・徹底した省エネの推進                  ・再エネの導入促進                  ・エネルギー科学技術に関する研究開発の推進                  ・気候変動対策や、CCSの調査・研究                  ・循環型社会の構築(東京オリンピック・パラリンピックに向けた 持続可能性等)                  ・国際展開・国際協力                  ・食品廃棄物の削減や活用                  ・農業における環境保護                  ・持続可能な消費の推進</p>
<p><b>⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全 (SDGs 2,3,14,15)</b>                  ・持続可能な農林水産業の推進や林業の成長産業化                  ・世界の持続可能な森林経営の推進                  ・地域循環共生圏の構築                  ・森林の国際協力                  ・大気、化学物質規制対策                  ・海洋(海洋・水産資源の持続的利用、国際的な資源管理、水産業・漁村の多面的機能の維持・促進)                  ・海洋ゴミ対策の推進                  ・地球観測衛星を活用した課題解決</p>
<p><b>⑦平和と安全・安心社会の実現 (SDGs 16)</b>                  ・子どもの安全(性被害、虐待、事故、人権問題等への対応)                  ・女性に対する暴力根絶                  ・再犯防止対策・法務の充実                  ・公益通報者保護制度の整備・運用                  ・「法の支配」の促進に関する国際協力                  ・平和のための能力構築                  ・中東和平への貢献                  ・マネー・ローンダリング、テロ資金供与等対策</p>
<p><b>⑧SDGs実施推進の体制と手段 (SDGs 17)</b>                  ・モニタリング                  ・広報・啓発の推進                  ・2025年万博開催を通じたSDGsの推進                  ・地方自治体や地方の企業の強みを活かした 国際協力の推進                  ・市民社会等との連携                  ・適切なグローバル・サプライチェーン構築                  ・SDGs経営イニシアティブや、ESG投資の推進                  ・国内資金動員のための途上国における税制・税務執行支援                  ・途上国のSDGs達成に貢献する企業の支援                  ・フューチャー・アース構想下での研究開発、国連大学等</p>